

町民懇談会（令和元年度10月）

- 開催日時：令和元年10月8日（火）午前10時
- 開催場所：矢巾町役場4階大会議室
- 参加人数：24名（ゲストスピーカー、傍聴者、事務局を含む）

ゲストスピーカー

いな お 愛 さん
稲 生

おお ひら えい こ さん
大 平 栄 子

たけ だ あき こ さん
武 田 明 子

ほそ かわ みつ ゆき さん
細 川 満 幸

め が たか のり さん
女 鹿 隆 徳

【町長あいさつ】

今回は「快適性と安全性を高めるまちづくり」ということですが、町政全般について意見交換させていただきます。

【自己紹介】

5人が自己紹介

【意見交換（各自の発言要旨）】

稲生さん：

- 南昌行政区に住んでいる。まだ私自身も車運転できるが、年齢とともに運転も難しくなってくると思う。公共交通機関がとても少なく便が悪いので、町の中心部だけでなく全体的に交通の便が良くなるようお願いしたい。
- これから冬の時期を迎えるにあたり除雪に関してお願いがある。除雪後にわだちができる。運転する際に怖いなど思うことが多々あるので、わだちが少なくなるような除雪をお願いしたい。

町長：

- 高齢などにより車を運転できなくなった際の買い物とか病院の通院の手段についてとかいろいろある。
- 町では、デマンド型の乗り合いタクシー事業をはじめているが、使い勝手について

さまざまな意見があるので、皆さんの声をお聞きして改善していきたいと思っている。

- 高齢者の方々の買い物支援や病院へ通院する支援の方法について、町内にある社会福祉法人とか医療法人の方々からは、所有する送迎車やマイクロバスを日中使って欲しいという話もある。
- 町とすれば、車の運転する者の確保、ガソリン代、保険などクリアしなければならない課題があるが、そういったことに対しても全面的に協力したいという申し入れもあるので、現在、町内の社会福祉法人へ実態調査を行っているところである。それにあわせて、皆さんが公共交通の選択肢ができるように設けていきたい。
- そうしなければ、地域コミュニティで、町の中心部だけがどんどん発展して、周辺部が不便をきたすと言われているので、そういった対策をしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

太平さん：

- 9月21日に医大附属病院が矢巾町に移転した。私が引っ越してきた23年前に比べると都会化して、ものすごくワクワクする状況にはある。ただ、心配に思っているのは、確かに救急体制は整ったと思うが、近隣の大きな病院は土曜日が休診で、クリニックも土曜日は午前中で診療が終了してしまうので、実は、土曜日の午後に診療できる病院がどこにもないという状態である。
- 医大附属病院は、もともと三次救急といって重症者を受け入れるところであり、の風邪をひいたから受診できるところではない。
- 日曜日とか祝日は、当番医制度があるし、午後7時以降だと盛岡市にある休日夜間診療所を受診できるが、やっぱり土曜日の午後から午後7時までの間、例えば子どもが熱を出した、高齢の方が吐いた場合に、救急車で搬送するまでではないが、日曜日または週明けまで家で様子を見ようかとなった時に、こわいことが多々あるのではないかと思っている。
- 実際に私が勤めている病院でも、土曜日の午前中は何ともなかったが、午後1時、2時になると熱を出したので診てもらえないかといった問い合わせがあるのが現状としてある。是非、これから町がどんどん大きくなり、人口が増えてきて、子どもや高齢者が増えるとなった場合に、土曜日の午後の診療体制が整ってくれたら良いと思うのと、町内に盛岡市のような夜間診療所があれば、矢巾町民は安心して生活できるのではないかと思っている。

町長：

- 大平さんからお話のあった土曜日の午後の診療について、紫波郡医師会と協議させていただく。
- 子どもの病児保育について、盛岡市と紫波町にはあるが本町にはない。今後、人口が増えてくる。子どもたちも増えると思うので、病児保育の件についても、紫波郡医師会とお話をさせていただいて、体制整備を求めていくように対応する。

武田さん：

- 参加者の中で移住したいと思った人がいた時に、住める場所が少ないのではないのかと思っている。
- 私個人としては関係人口としていろんな地域に関わらせていただいていることもあるので、実際、矢巾町での雇用をもう少し増やせるのではないかと思っている。
- 例えば、会社として産業技術短期大学の学生さんとデザインの仕事を一緒にできないかとか考えている。
- 矢巾町に住まなくても、町と関わる人をどんどん増やす形は他にあると思うので、移住することでの税収アップという考え方ではなく、矢巾町だからこそできる他の地域との関わり方を考えても良いと思う。特に矢巾スマートインターチェンジができてからアクセスが良くなった。このように東北自動車道の利便性を考えても、可能性はあるのではないかと思う。
- 10年ぐらい住んでいれば矢巾町のさまざまなエリアとかかわると思うのだが、引っ越してきてからあまり経っていないので正直わからない。
- 回覧板が届くが、内容を見たときにイベント等に参加して良いのかどうかかわらない。回覧板は回してしまうのでイベントに参加したくてもわからない。紙物の制作物の流れ、例えば、案内文書の下欄に申し込む欄を設けて、参加する者は切り取って誰々に渡すといった導線まで作った方が良いと思う。
- いろんな施策をしているのは見ていて、この間の回覧板にも住民主導コミュニケーション講座が案内されていた。実施されることは面白いことだと思うので、もっと広がれば良いと思う。

町長：

- 今、矢巾町は家を建てたいが土地がない、アパートもないということで随分お叱りを受けている。盛岡市と滝沢市と矢巾町で都市計画について話し合っているが、この間、県から77ヘクタールの市街化区域の拡大を認めていただいた。拡大を認められても今度は、農振除外をしなければならないので、現在、東北農政局にお願いをしている。
- 土地利用というのは、10年以上の企画でやらなければならない。なるべく急いだつもりだが、大規模なプロジェクトがあるときには10年以上前から対応していかななければならないという反省点はある。
- そういった意味で、市街化区域の拡大、それから市街化調整区域でも地区計画というものがあるのでそういう仕組みも利用する。
- 武田さんから、移住定住のお話が出たが、空き家対策については町のPR不足である。持ち家を手放したい、持ち家がほしいという人も、例えば私がお聞きしたのは、家の中にある神棚とか仏壇の処理が問題としてあるので、これらの解決については町としても考えていきたい。
- リフォームをするために県や町の助成を考えてほしいというようなことを遠慮なくお話しいただきたい。
- 空き家は、古くなればなるほど誰も住まなくなるので、所有者の方が譲って良いと

か貸して良いというのであれば、すぐ機動的に対応できる体制にしていきたい。

- 現在空き家は約150ある。農地付きの空き家もあるが、5反歩要件がある。町民農園のようなこともできるように、県の農業会議でも精査いただいている。
- 移住定住の対策について矢巾町は今回チャンスである。例えば、現在盛岡市にあるマンションに住んでいる人で、できれば矢巾町の土地付き一軒屋を求めたいという方もいる。そのような声にお応えできるようにしていきたい。
- 回覧板と周知のあり方について、丁寧な説明をしないところに問題がある。公民館と言っても地域の公民館であればどこにあるとか、略図をつけるとかの工夫が必要である。文字だけでなくイラストなどを駆使しながら対応していかなければならない。例えば、広報の記事を作成する際にもそのような気遣いをさせていただきたい。

細川さん：

- 私の住んでいる土橋行政区は、近くに清掃センターと養豚団地（イセファーム）がある。そこに出入りする車が多い。長徳橋が完成してからダンプ等の大型車両がなぜか大きい道路を通らないで、狭い道路を走る。子どもたちが通学するのに非常に危険である。大きな道路には歩道が整備されているが、昔からあるような道路には歩道はない。今の徳田小学校に通学するためには、歩道のない道路を通るかわざわざ舗装していない砂利道を通るかであり、安全を考えるとそのような状況になっている。
- 土橋と間野々地区、不動、煙山地区でも昔の道路には歩道の整備が少ないと思う。私の孫も来年から徳田小学校に通うので、歩道の件についてはとても気になっている。
- 徳田小学校がいずれ移転するという話も聞いていたので、今すぐ歩道整備に取り組むことが難しいというのであれば、次に徳田小学校が移転するところに、子どもたちが安全に通学できることを視野に入れながら歩道の整備について考えていただきたい。
- 自由意見の方で発信するべきか、テーマの方で話をするべきか迷ったが、養豚団地（イセファーム）の臭い対策について、地元でも懇談の場には出席しているが、なかなか改善されない。イセファームの方でも努力はしているとは思いますが、根本的に解決するような状況ではない。
- 現在は土橋、間野々、東徳田、西徳田。風向きによっては、医大が建っている方面まで臭うこともあるという話を聞いている。
- イセファームの移転について、町として強く要望していただきたいと思う。
- 本当に夏の暑い日にあの臭い。全部窓を閉め切ってエアコンつけるしかないというくらいすごい臭いがすることがある。
- 町の方でも臭いの対策やイセファームとの話し合いを持っていただければということが私のお願いである。
- 農業関係のAI化が進んでいる。衛星から直接農機具の位置の受信をすると、20cmぐらいの誤差が生じるが町内に基準局を設けることにより誤差が3cmで収まるとのことなので、基準局の整備をお願いしたい。

町長：

- 徳田小学校、煙山小学校、不動小学校は建て替えの時期に来ている。紫波町は川東に五つの小学校があったが、これを一つの小学校にまとめた。その際に地域からの反対はあったようだが、新聞報道等で見たり聞いたりしているのでは、スクールバスを利用することによって、子どもたちの通学の安全確保ができるのであれば、五つの小学校を統合した小学校を建設することもやむを得ないのではないかという結論に至ったということを知っている。
- 小学校の建て替えについては地域や保護者の方々、議会などいろいろな方々と議論していきたい。一番重要なのは、児童生徒の安全確保である。小学校の建て替えと安全確保については、解決しなければならない課題である。
- イセファームについては、10月23日（水）に藤原議長と本社へ行ってくる。今回は臭いだけではなく、南関東まで被害が来ている豚コレラの関係も併せて要望してくる。
- イノシシも豚コレラに感染する可能性がある。イノシシは今発情期であり、移動距離はものすごい。イセファームはハウス養豚であるのでイノシシが簡単にハウスに入ることができる無防備の状態である。23日にイセファーム本社を伺った際は、豚コレラ対策についても確認する。
- スマート農業のための基準局については、岩手県町村会を通して県に要望していく。

女鹿さん：

- コミュニティの活性化について話をさせていただく。
- 徳田小学校は町内で一番児童数が少ない。新しい方が入ってくる要素が少ないのが大きな問題となっている。
- 今年は、1年生があと一人増えれば、1学年が2クラスとなる予定であったが、その一人が徳田小学校学区に住むところを見つけないことが出来なくて、矢巾東小学校に入学した経緯もあるので、学区内に住むことができるように住まいの確保をお願いしたい。
- 近所付き合いが少なくなっている。我々の地区は同居している世帯が多いにも関わらず、私たち世代が地域の行事等に参加しないことによって、地域の方々とのつながりが軽薄となっていることは、自分が消防団活動、PTA活動、学校活動を行っていて感じることである。
- 学校の方でも地域とのつながりについて策を打っていただいているが、昨今子どもたちを巻き込むような事件や事故が多く、子どもたちを守るという観点に立ってしまうと学校を解放できないという状況にあり、和田教育長がコミュニティスクールという構想を持っていただいているが、地域の方々とのつながりが持てずに困っているという状況である。
- 土橋行政区としては、子ども会の行事がある際に、自治会長や公民館長をお呼びしながら、親同士顔を覚えてもらうような行事を年1回取り入れたりして頑張っているが、他の地域でも同じように苦労しているという状況である。
- 町に頼ることも必要だが、我々地元にいる若い世代がもう少し努力して行かなければ

ばいけない。

- 高齢化している地域もある。先ほどお話に出た回覧板の話をする、土橋行政区の班では、国道拡張で家の並びがバラバラになったにもかかわらず、昔のままの順番で回覧板をまわしていたので行ったり来たりしていたものを、最近、現在の家の並びにあわせた順番とした。みなさん不便とはわかっている、従来からのことだからとなかなか直せない。
- 地域の草刈において、自分たちが草刈をする場所については、年配の人たちは今年も昨年までのところだとわかっているが若い人たちはわからない。情報発信が必要である。
- 若い人たちはいろんな企画をしているが地域の人たちに伝わっていない。回覧板やコミュニティを活かして行っていただければ良いのではないかと思う。
- リーダーの育成というところについてお手伝いいただきたい。我々世代も頑張っているが、同じ世代の人たちも矢巾に住んでいるが今まで交流がなかったりしていた。町内の企業の同世代の方々との交流も定期的で開催していただきながら、そこに消防団等の活動を含めていただければ非常に助かる。
- 防災士の資格も消防団員にどんどん取得していただく。
- 防災といのは、コミュニティにとっても重要だと思っている。東日本大震災や阪神淡路大震災が発生したときも、コミュニティの発達しているところはお互い助け合ったことにより、命が助かったところが多かったということがこの間の防災士勉強会の際にお話があった。
- 町では年に1回、防災訓練を行っている。それとは別に、徳田、煙山、不動という単位で、子どもたちも巻き込みながら、炊き出しをしてみるとかいろいろ企画してみたいので、町でお手伝いしていただきながら、我々世代を育成していただければと思う。

町長：

- 町としても、地域コミュニティの充実・活性化をどう図っていくかということが大きな町政課題である。
- 今年の町の防災訓練は、睦喜会と第二新生園のところで行う。
- 女鹿さんからお話のあったように、例えば、各小中学校単位での防災訓練の実施することについては素晴らしい提案である。
- 現在の消防団が昔でいう青年団の役割を果たせるようになれば良いのではないか。
- 葛巻町の消防演習では、小学生がポンプ操法を行うそうである。それを保護者が観ているし、子どもたちは歓声をあげて盛り上がる。小さい頃からの防災教育は大切である。
- 地域コミュニティについて、昨日、煙山自治会でエンジョイやはばネットワークづくりの煙山いきいきサロン事業があり参加してきた。今後は介護老人健康保健施設や特別養護老人ホームに入所できない時代が来る。だから自治公民館や自治公民館の近くの施設で、普段皆さんが集まってお話をしたり、家に帰れないときは泊まったりと365日24時間見守りのできるようなことをみんなで考えていきたいと言

いう話し合いだった。今、地域からそういう盛り上がりも出てきている。

【自由意見】

女鹿さん：

○先ほど、紫波町の五校が一校に統合になった話をお聞きした。例えば、徳田小学校と不動小学校が統合になるとして難しい部分がある。岩手県独自の教育振興活動を活発に行っている中で、不動も徳田もお互いに独特の活動を行っている。地域の方々が小学校のためにご尽力されている。このようなこともご理解いただきたい。

町長：

○女鹿さんのお話は、ご提言として承りたい。

細川さん：

○消防団の話をさせていただきたい。

○今の消防団は人数が少ない。町内には13の部があるが、その中でも人員不足により危機に面している部がいくつある。

○努力して人員を集めるようにしているがかなり難しい。昔と違って今は自分の時間を大事にする人が多くて、私たち年配と一緒に活動するとかお酒を飲むことを好まないような感じである人たちが多いような気がする。

○消防団でも、どうしたら団員を確保できるのかということについて話しをしているが、なかなか実現するまでには至っていない。

○消防団員には団員カードが配られており、賛同いただいている店舗に行って団員カードを提示すると、ポイントが付与されるか割引になるところが県内にもあるし町内にも数店舗ある。

○若い人たちを消防団に入団してもらうことを考えたときに、若い人たちや家族が行くような店舗の割引やポイントが付与されるように考慮していかないと、入団や活動について、なかなか家族の理解が得られない。

○若い人たちがどういうところに行くかということとファストフード店、映画館、娯楽施設である。そのようなところの割引とかポイントの付与とかがあれば、入団等について考えてくれるのかなと思うので、矢巾町から県へも働きかけてほしい。

町長：

○なぜ、消防団が必要であるかということについては、住宅火災や救急については、消防署でも対応が可能であるが、大規模災害のときには消防団の人たちがいなければ対応できない。

○「消防団を応援する店」については、すでに県や町で行っているが、加えて若い人たちや家族が行くような店舗の新規開拓についてもすぐ検討させていただく。

武田さん：

- 私は夫と2人暮らしており町との関わりあいがない。唯一関わりがあるとすれば回覧板。地域でこの人に相談したらいろいろ相談にのってもらえるという人がいるのか自体すらわからない。
- 南矢幅のあたりは新興住宅地と思うので、地域の方は「あの人有名」という人を知っているかもしれないが、私は知らない。
- 全国旅していると、高知に行ったらあの人に聞けとか、愛媛に行ったらあの人に聞けとかある。矢巾の名物おじさんのような人がいるならその人に会いたい。
- 矢巾に住む前に横浜に住んでいたがその時は、隣近所の人を知らなかった。かつて郵便物が間違っていて偶然近所の人の名前を知ったくらいで、表札も出していないような関係性の町だった。
- 今も利便性の高い場所に住んでいるが、近所の人とちょっと顔見知りになるけど、子供がいなくてそれ以上、つきあいに広がりがない。
- さらに、矢巾で仕事をしていないので、矢巾のことがもっとわからない。葛巻、二戸、一関などのイベントで登壇させていただいているが、一番身近な矢巾のことをもっと知りたいと思ったときに誰に聞いたらいいのか。
- 実はとても盛り上がっている人もいれば、それこそ有名消防団員がいるとか、あの人とお酒飲みに行ったらとてもおもしろいなどという情報を知りたい。
- 医大ができて、新しく住む人も増えてくると思う。地域に昔からいる人にお会いしてみたい。
- 「音楽のまち」、「防災のまち」など、「〇〇のまち」がとても多くないか。あまり多すぎると、逆に外向きのPRとしては弱い。メリットがたくさんあるということだとは思っているが気になっている。

菅原情報係長：

- 武田さんのおっしゃるとおり、「〇〇のまち」が多いと、インパクトに欠けてしまうことは理解します。しかし、矢巾には「〇〇のまち」というのが多いのは、それだけ矢巾町には良いものがあるということを示し、みなさんに知っていただきたいからであることもご理解いただきたい。
- 町の有名人については、今後発掘に努めていく。

町長：

- 矢巾町は、特徴のないことが特徴であると言われることがある。
例えば、徳丹城のイメージキャラクターとして文屋綿麻呂のマスコットをつくっているが、もう少しPRをしていくことも大事だと思う。

大平さん：

- 私は矢巾町に23年になる。引っ越してきたとき、わからないことがあれば区長さんのところに行って、いろいろと教わって来なさいと言われていたが、今はそのような時代でなくなったのかもしれない。

- 娘は音大生の声楽科に属している。紫波郡の独唱大会で最優秀賞をいただいたことから、自分は歌を歌う人になりたいということで高校から大学まで音楽関係の学校に進んでいる。
- 昨年あたりからはミュージカルをやりたいということで、ミュージカルコースを選択したので、現在5年生になっている。
- きっかけは、町民劇場で演技をすることでステージに立って自分を表現したいんだということだった。
- 娘が高校時代にコンクールで大分、神戸、東京などに帯同した。
- 不来方高校の合唱部は全国でも有名であるが、矢巾町いうとそれは何処にあるところという感じがする。
- 音楽のまちを宣言したり、いろんなところに音符があって、街灯の上に設置しているレプリカの「かっこう」のくちばしのおり進むと田園ホールに到着するというかわいらしいアイデアもあるのに全国レベルのコンクールがないことが残念である。
- どこの会場に行っても思うのは、田園ホールはけっこう立派であるということ。音の響き方が良い。
- 滝廉太郎生誕の地の大分県竹田市は、市ではあるが矢巾町よりアクセスが悪いし、歌ったホールもそんなに立派ではなかったが、それでもホールを目指して全国の高校生が代表権を競い合う大きな大会がある。
- 矢巾町には音楽専用の田園ホールがあり、合唱で全国的に有名な不来方高校があり、交通の利便性から言っても盛岡駅も近く、花巻空港からもそんな遠くないと立地条件が良いので、全国大会レベルの声楽コンクールが行えるようなことを検討していただければ、より矢巾町のPRになるのではないかと思う。

町長：

- まきにご指摘のとおりである。11月に音楽のイベントを行うが、これは町内に限ったものなので、今後はご指摘のあったことについて内部で検討させていただく。
- 田園ホールは、歌う方々達にとっては非常に素晴らしいホールとのことであるので、もっとPRしていきたい。

稲生さん：

- 町で主催している特定健診で病気が見つかったが、早期発見だったため早く治療ができて、現在も問題なく生活できているので、是非、今後とも特定健診の実施をお願いしたい。

町長：

- 今のことはご提言として承りたい。

【町長所感】

今日は、快適性と安全性を高めるまちづくりということで5人のゲストスピーカーからご提言、ご意見をいただいた。今、矢巾町は特定健診の受診率は50%台、国民年金の加入率は77%であるが、さらなる向上を図るための取り組みとしてワンストップサービスができるように組織機構の見直しに着手している。役場に行って相談すれば諸手続等についてきちんと教えてくれると感じていただけるような雰囲気づくり、皆さんが来庁しやすい環境づくりをつくって行きたい。

今後も、町民懇談会でただいたご提言、ご意見をさらに深掘りをして進んでいきたいと思っているし、職員ひとりひとりの資質の向上も図っていく。

(11:50 終了)